

震災復興支援に携わっている人達、 携わった人達の一言メッセージ!!

東日本大震災から6年が経ちました。

誰しものが言葉を失ってしまうほどの大惨事を目のあたりにする中、震災直後から今日まで、被災者の方々や公共団体の方々、関係機関の方々等と協働し、復興支援に全力投球している・してきた支援グループ・支援メンバーの思いや経験談をお届けいたします。

なお、投稿に際して、所属名・氏名を記入する、所属の属性・匿名とする——のどちらでも構いませんとさせていただきます。

(順不同)

<p>●現在の思い コンサルタント 岩手県</p>	<p>震災当初より復興事業に携わり、目の前の課題をあきらめず丁寧に進めてきた。事業もある程度将来の姿が見えてきて、地元住民の方々も落ち着いてきているように見受けられる。</p> <p>はじめての東北での業務であり、東北ならではの良いところを沢山感じられ、今後も大切な地域として将来を見続けていきたい。</p>
<p>●まちづくりの原点に立ち返って コンサルタント 東京都</p>	<p>現地では、津波による甚大かつ痛ましい被害を受けた状況から復興計画の検討を開始したが、仮設住宅から住み慣れた場所に戻って住み直す方々の未来を思いながらハード・ソフトの検討を進める中で、行おうとする取り組みの大小に関係なく、まちづくりの本質や現実とは何かを日々見つめ直す機会を与えてもらった。</p>
<p>●震災復興の重み UR都市機構 岩手県</p>	<p>平成25年4月から宮城県女川町の復興事業に携わりました。</p> <p>町民全員に今後の予定についての意向調査面談会を行うなどの、本当に一から町全体を再生していくような場面に出くわすのは当然初めての経験であり、そしてこれからもまず無い事だと思っています。そして、仮設住宅等で復興を待っている人たちがいる。たくさんの人に待たれているというプレッシャーを自ら感じ、スピード感を持って業務に当たってきましたが、これも、今までとはまた違った重みのある感覚のものでした。</p> <p>現在はその現場での経験を生かせるよう、岩手沿岸の市町の復興事業支援のバックヤードとして支援に当たっています。</p>
<p>●1日も早い復興のための コンサルタント 東京都</p>	<p>早期復興という明確な目標があるため、問題解決のスピードが早い。</p> <p>被災者の1日も早い生活再建のため、行政機関をはじめ事業に関わる方々が一丸となっている。</p>
<p>●時間経過で・・・ コンサルタント 宮城県</p>	<p>実際に震災事業に携わっていないと、当時の「復興に尽力しよう」という気持ちが薄れていってしまうことを震災後6年が過ぎて改めて感じた。現地はまだまだ復興半ばなところもあることを含めて、常に現場から情報発信していきたい。</p>

<p>●貴重な体験 コンサルタント 福井県</p>	<p>人生初めての東北。現地の人の明るい表情やどことなく伝わってくるパワーがあって、また同業者との仕事を通じたディスカッションなど、全てが新鮮であった。また、深夜残業後の食事・炊事・洗濯は、単身の男にとって、あらためて家族のありがたみを感じた。</p>
<p>●衆力功あり UR都市機構 東北</p>	<p>復興事業は、様々な組織の方々が従事する混成部隊なので、本来であれば「衆力功あり」となるはずですが、各組織の区画整理事業のお作法の違いが支障となる場合もあります。この違いの摺合わせが意外と大変なのですが、それぞれのお作法に固執することなく「三人行えば必ず我師あり」の姿勢をもって相互理解に努め、課題ごとに客観的かつ合理的に最善手を選択していくことが早期復興のためには不可欠だと日々実感しております。</p>
<p>●真の復興を目指して コンサルタント 福島県</p>	<p>震災直後から福島いわきに関わって来ましたが、当初は津波や原発災害からの避難により、地権者の所在や生死までもが混乱している有様でした。急がれる復興と遅々として進まない権利調査や復興手段手法の検討など、一年目は忸怩たる思いで過ごしました。 宅地引渡しから換地計画へ移ろうとする今は、新しい街として寂びない力強い復興を祈念しています。</p>
<p>●使命感⇒不安感⇒焦燥感⇒達成感(安堵感) UR都市機構 東北</p>	<p>3年前、復興支援業務を希望し、使命感に燃えて着任しました。しかし、復興最前線は予想以上に厳しく、手戻りの多い現場に不安感が日々増加していきました。「地権者に一日でも早く土地をお返ししたい」という思いとは裏腹に、遅々として進まぬ仕事に焦りばかりが募りました。それでも、地元行政と二人三脚で、少しずつ、目の前の仕事をなんとかこなしていくことで、無事に当初予定通りに換地処分を迎える事ができました。今は、仕事帰りの車の中から見える街の灯りがだんだん増えている事に達成感(安堵感)を感じています。</p>
<p>●毎日長時間にわたる打ち合わせ コンサルタント 東京都</p>	<p>当初はどのようにすれば一日も早い復興ができるか全員が手探りの状態であったため、7~8時間に及ぶ打ち合わせが毎日続くこともありましたが、多くの調整を経て進んでいく復興の姿を見ることは何にも変えられない喜びがありました。</p>
<p>●住民の方々の笑顔 コンサルタント 岩手県</p>	<p>震災から5年半余り経った、昨年10月に防集団地の宅地引渡しに立ち会いました。その時の住民の方々の笑顔は忘れることが出来ません。「一日も早く復興事業を完了させなければ」と改めて思いました。</p>
<p>●地元の期待感を胸に UR都市機構 久宮和彦 福島県</p>	<p>工事中における宅地の見学会や地域交流会等を通じて、地域住民の方々の期待感、感謝の気持ちなどに触れ、1日も早い復興へ業務を推進していかなければと、思いがより強くなります。</p>

<p>●6年間を振り返り コンサルタント 福島県</p>	<p>震災直後から福島いわきに関わって来ましたが、当初は津波や原発災害からの避難により、地権者の所在や生死までもが混乱している有様でした。急がれる復興と遅々として進まない権利調査や復興手段手法の検討など、一年目は忸怩たる思いで過ごしました。</p> <p>宅地引渡しから換地計画へ移ろうとする今は、新しい街として寂びない力強い復興を祈念しています。</p>
<p>●役所・コンサルの垣根を越えた チームプレー コンサルタント 東京都</p>	<p>どのようにすれば一日も早い再建ができるかといった思いの中、役所とコンサルタントといった立場ではなく、復興に携わるものとして全員が一丸となってまちを立て直していくという気持ちで業務を進めていたことが非常に印象的でした。</p>
<p>●復興事業の現場の魅力 UR都市機構 東北</p>	<p>発災から遅れること3か月後の平成23年7月から足かけ5年と9か月、復興支援業務に携わって来しました。造成した宅地や公営住宅が被災した方達に引き渡され、笑顔を見せて頂いたときなどに、公的事业に携わる者としての本懐を感じています。</p>
<p>●技術者の社会的使命を背負って コンサルタント 東京都</p>	<p>現地では、技術者として頼られることが非常に多く、また、業務内容も多岐に渡ったので、非常に苦労はしたが、やりがいと共に、技術者としての社会的な使命感も多く感じながら日々を過ごすことが出来た。</p>
<p>●一歩ずつ UR都市機構 桑波田圭子 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>震災翌年の平成24年4月から復興支援に携り丸5年が経過しようとしている。当初は事業計画や基本設計、ガレキ撤去工事等の業務内容だったのが、大規模土工事が進み、住宅が再建され、商業施設がオープンするなど人々の笑顔に触れる機会が多くなってきた。復興の進捗が遅い等の外部からの意見もあるが、実際に被災地で業務に携っていると、一歩ずつ進んでいることが実感できている。</p>
<p>● コンサルタント 宮城県</p>	<p>復興事業が遅れているニュースなども耳にするが、それでも一般的な事業よりは進捗が早い。計画が全く無い段階から、計画が策定され、工事が進捗し、建物が建ち、そこに生活が生まれるまでの一連の流れを短期間で経験した。早期復興が求められたため苦労も多かったが、同時に大きな達成感を感じることができた。</p>
<p>●支援とは コンサルタント 埼玉県</p>	<p>復興業務にて、被災者の住宅や仮設住宅を訪ねることもありました。少しでも不安を取り除ければと、話し相手になることも多くありました。何かを作るばかりが復興でも無く、人の交流や対話も早期支援であると感じました。</p>
<p>●復興の絆を絶やさない コンサルタント 福島県</p>	<p>復興から6年、復興イベントが各所で報道されています。</p> <p>居住地と安全な街が完成しても、人の繋がり、希望がなければ衰退するだけです。この復興で知り合った人たちの絆を大切に、復興に取り組んでいきます。</p>

<p>●事業の考え方や進め方の違い UR都市機構 竹内 豪 関東</p>	<p>全国の自治体から集まる応援職員が各被災自治体の中心となって、復興事業を推進していることが多かったが、それぞれの自治体で培ってきたものが異なるため、事業の考え方や進め方等に、それぞれ特色が出た。事業の受託者として、その違いを理解し、活かして行くことに苦慮した。</p>
<p>●被災者との協働 コンサルタント 福井県</p>	<p>現地事務所で共に仕事した職場のパートさんが、実際に被災した女性の方で、幸い命は救われたものの家が流され仮住まいされている生活であった。大変な思いをされている表情を見せず毎日元気な姿で仕事を手伝っていただき、感謝と逆に助けられた思いである。</p>
<p>● コンサルタント 宮城県</p>	<p>東北以外の地域では、震災復興に関する情報は3.11以外はあまりメディアで発信されず、人々のなかから風化していつているように思える。私は復興事業の途中から携わるようになったが、現地はまだまだ復興半ばであることを再認識した。一刻も早い復興完了に向けて尽力していきたい。</p>
<p>●被災移転者の笑顔 UR都市機構 清水良祐 宮城県</p>	<p>東松島市の2地区は土地区画整理事業手法を活用した権利者1or2人施行である。平成24年4月に着任、同年11月と平成25年2月に現場に着手ができ、4年、3年かけて移転先宅地がすべて完成、被災移転者等に笑顔、希望、夢が生まれて安堵した。また、鉄道も再開しているので新たな地域として維持、継続することを願う。</p>
<p>●コンビニおでん コンサルタント 福井</p>	<p>毎日夜遅くまで仕事をしてきたため、帰る頃にはお店が閉まっており、唯一空いていたコンビニには大変お世話になった。特に、東北の冬は寒く、コンビニおでんには身も心もあたためられ救われた。</p>
<p>●震災復興に向けて コンサルタント 岩手（大船渡事務所）</p>	<p>東北沿岸部という地の利もあり「東北の湘南？」と言われ暖かい事が内陸より幸いである。</p> <p>H30年度までに工事完了を目指して市・コンサル・JVと共に通常の区画整理事業の約4倍のスピード感で事業が進められている。その対応は目まぐるしく日々何かが起こる事も日常茶飯事である。</p> <p>三位一体のスケジュール管理と実施が伴い、人間関係の信頼が必須条件であることが赴任して感じた感想と言える。</p>
<p>●かえって（こちらこそ） UR都市機構 日野智之 宮城県</p>	<p>気仙沼に暮らし、この街の復興に携わって4年。この街の良さもたくさん知りました。</p> <p>地権者からのねぎらいの言葉に復興事業のやりがいを感じ、『かえってありがとう』と伝えたい。公園でのワークショップでの中学生のハツラツした姿も忘れられません。</p>

<p>●新市街地の先行買収に当って コンサルタント 東京都</p>	<p>被災者への宅地供給を目的とした土地区画整理事業を行うにあたって、先行して市で地区内の農地を買収することになり、早期の宅地供給を開始するためには、短期間での買収交渉を行う必要があった。こうした中、地権者説明会を開催し農地の買収協力を説明したところ、先祖代々からの土地を手放すことに抵抗がある様であったが、「被災された方への手助けになるのであれば協力します。」との声が多く見受けられ、人と人との絆の強さと広がりを感じました。</p>
<p>●スピードと妥当性の中で コンサルタント 宮城県</p>	<p>震災事業ではスピード優先のため、計画・設計・換地・補償・工事が同時に進行した。前例がなく、何が妥当か迷うことも多かった。その中で、常に『どうあるべきか?』を『みんな』で考えることが重要だったと感じる。</p>
<p>●勤務地への山越えの通勤 UR都市機構 廣岡秀隆 東京都</p>	<p>内陸の居住地から沿岸の勤務地へ片道85kmを毎日往復すること2年。山越えのため冬場の通勤は片道2時間。除雪車がいるといつ着くか分からない中で、少しでも復興の一助になればと思い、業務に携わりました。</p>
<p>●新生活の始まりをみて コンサルタント 埼玉県</p>	<p>完成した現場に被災者の方々が家を建て新しい生活を始められるのを見ると、自分が携わってきたそれまでの苦勞が吹き飛ばす思いがしました。</p>
<p>●言葉の壁を乗り越えて コンサルタント 千葉県</p>	<p>初めは、地元の方や関西から来られた方との言葉の違いに戸惑い、うまく意思の疎通が図れず、うまくやっていると不安があったが、早期復興への思いは皆同じなので、思ったより速く一体感を持って復興業務に携わることができた。</p>
<p>●復興事業に携わって コンサルタント 東京都</p>	<p>「被災者のための早期住宅再建」という思いの中、いかに早く計画をまとめるか、いかに早く工事着手するか、そのための計画変更や協議調整等、めまぐるしく変わる日々の対応に追われ、今までに感じたことのないスピード感に喰らいついていくのに必死であり、あつという間に日々が過ぎ去っていった感覚であった。</p> <p>被災から6年が経過しようした現在では、工事も完了し、住居を建て新たに生活を始めている住民の姿や、まちなみを見ると、今までどこか現実味を感じられなかった復興・生活再建ということの意味を肌で感じる事ができ、非常に達成感を感じられた。</p> <p>被災者にとっての6年余りという時間は、私たちでは感じる事の出来ないほど長く、苦しいものであったと思うが、そうした方々が新たにあゆみはじめるまちが、いつか心の落ち着ける、故郷となることを心より願っています。</p>
<p>● コンサルタント 宮城県</p>	<p>一日も早い復興のため、計画・設計・換地・補償・工事が同時に進行した。そうした中で、部署、会社の枠を超えて、関係機関や業者と密にコミュニケーション、一日一日変化する現場の状況にアンテナを張り続けることの重要性を感じた。</p>

<p>●遠くの話ではない UR都市機構 岩手県</p>	<p>昨年8月、復興に従事している地で台風10号の直撃を受け、「被災者」の立場を経験した。日本（あるいは世界どこでも）に暮らすかぎり、自然災害と無縁ではいられないことを実感するとともに、被災翌日から黙々と復旧に精を出す住民に力をもらった。</p>
<p>●総合コンサルによる強み コンサルタント 福島県</p>	<p>多様な業務のため専門外の作業対応を迫られているが、本社等の専門スタッフからのアドバイスにより、業務を遂行することができた。</p>
<p>●担当地区での復興・再建が進み感じたこと UR都市機構 小川真一 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>赴任直後は事業規模、多岐にわたる業務内容に戸惑うことがあったが、担当する宅地造成が完了する毎に、現地での地元の方々の復興・再建が進み、喜ぶ姿を目の当たりにすることで、通常業務では味わえない達成感を感じ、震災復興業務に携われて良かったと感じている。</p>
<p>●復興業務のなかで コンサルタント 大阪府</p>	<p>復興事業の業務を担当することで、被災地の復興に少しでも貢献できればと励んでいます。通常業務では得られないハードな経験もある中、被災地の方にこちらのことを気遣っていただいたことは強く心に残っています。</p>
<p>●一日でも早い復興のために UR都市機構 松原弘明 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>被災直後の平成23年7月から5年半、東北の復興に関わってきた。家を失い、仮設住宅での厳しい暮らしを余儀なくされている方々のために、少しでも早く、まちを復興させようと取り組んできた。力不足の点があったかも知れないが、これまでのUR都市機構での経験やノウハウを精一杯活かして、復興を前に進めることが出来たと自負している。被災から6年が経ち、新しい住まいに戻ってきた方々から感謝の言葉を聞くと、復興に携わってきた者としてホッとするとともに、感無量の思いである。</p>
<p>●6年の時がたとうとしています コンサルタント 大阪府</p>	<p>6年の時がたとうとしています。</p> <p>私が仕事として陸前高田市、大船渡市へ向ったのはその年の6月6日車で入り、目にしたのは気仙川に架かるJR鉄橋の破壊された姿でありほんの少し被災された建物を除きそれまで生活を営んでいたであろう住宅や商店街が壊滅した空間でした。私は、その前の震災に遭った神戸でも神戸に事務所が有り同じく復興の仕事を瓦礫の中日々の不便を体験した思いから改めて自然災害の猛威とこれからの復興の道のりの大変さを痛感しました。</p> <p>6年の時がたち大船渡市では市街地での区画整理事業が進み少しずつ新しい街が形成されつつ有り、高台移転も同市で最大のもりっこ・ほらっから地区の工事も進められており最後の地区もちかじか始まる予定のようです。</p> <p>神戸のような都市型と違い地方での復興は生活や産業など将来の課題は多いものの長く続いている伝統ある文化や海からの幸などを生かした復興もあるのかなと思いました。</p> <p>今は再び関西で仕事をしていますが、時々両市を訪れるに付き新しくなる息吹を感じとります。現地での仕事は地元の助けや提案も受け進めることが出来ました。本当に有難うございました。完全に復興した姿を是非見てみたいです。</p>

<p>●復興事業に携わる不安と誇り コンサルタント 埼玉県</p>	<p>業務で被災地に赴くまで、被災した方にどう接するべきか不安でした。 実際は、皆前向きで復興を願う気持ちは一緒でした。微力ながら復興に協力できたことは誇りです。</p>
<p>●復興現場に赴任して UR都市機構 東北</p>	<p>震災から6年。東京では遅いと思っていた復興の現場に赴任し、その調整事の多さを目の当たりにして、初動期のご苦労を実感しました。一日でも早い、被災者の皆さまの住まいと生業の再建に向けて頑張りたい。</p>
<p>●あの時から3年 コンサルタント 埼玉県</p>	<p>二十歳を迎えた年に震災復興に係り、気づけば3年が経過していました。 当時、現場調査に赴いた場所がこの3年間で復興に向けて大きく変化している事に驚くと共に嬉しく思います。</p>
<p>●いい思い出 コンサルタント 福井県</p>	<p>東北での仕事は、精神的にも肉体的にも非常にきつく、早く帰りたい一心でがんばったが、今となっては、つらい思い出より、いい思い出（いろいろな人との交流）の方が印象に残っており、行って良かったと素直に思えるようになった。</p>
<p>●勝手な思いかもしれませんが UR都市機構 東北</p>	<p>悲しく辛い思いをしてきた被災地の皆さん、震災後から覚悟を持って頑張っている役場職員、及びこの街の将来のお役に少しでも立てればという思いで復興業務を行っています。</p>
<p>●地元の方との交流 コンサルタント 東京都</p>	<p>一度も訪れたことのない土地であった為、最初は右も左も分からない状況であったが、業務を通じて知り合った地元の人達が親切に地元の情報を教えてくれたのがうれしかったです。親切にして戴いた人達の為にも、少しでも復興の為にがんばっていききたいという思いが強まりました。</p>
<p>●地元住民の方々に助けられて コンサルタント 東京都</p>	<p>高台移転のための用地測量。移転先が公図の無い地図混乱地域であったことと、震災による移住などが重なり、地権者の特定が困難でしたが、地元住民の方々による情報提供に助けられ業務を遂行することができました。</p>
<p>●復興事業を1年目で携わってみて UR都市機構 志村有美 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>復興を迅速に進めていくため、輻輳する事業の調整、従前の生活が確保されるように事業を進める難しさを身に染みて感じた。一方で、復興のピーク時期であり、現場が毎日出来上がっていく状況を肌で感じられるのは自分への活力となっている。</p>
<p>●意向調査の難しさ コンサルタント 東京都</p>	<p>私は25年10月に大槌町に仮換地の意向確認に携わらせて頂きました。 まだ、街並みは震災の爪痕が残っているような状況の中、権利者の方に仮換地の意向調査を行いました。 仮設住宅等にも伺わせて頂きましたが、仮換地の意向調査ですので、従前の状況や土地利用を聞く際には、やはり当時を思い出させてしまう事もあり、泣いてしまう権利者の方も居てしまい、改めて震災の怖さを感じました。</p>

<p>●早期復興へ UR都市機構 南木宏和 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>少しずつ工事の完成エリアが誕生し、復興事業が着実に進捗している実感はありますが、生活される方々の再建が持続的に進むよう一日でも早く施工中エリアを完成させ、本格的な復興につなげられるよう精いっぱい取り組みます。</p>
<p>●復興相談窓口において コンサルタント 東京都</p>	<p>地震・津波の脅威、あまりにも酷い災害、何をどうしたらいいか分からない被災者。 被災者の立場に立って相談内容を的確に把握し対応しました。 一日も早く復興していただくために被災者のため業務を遂行してきました。</p>
<p>●男気 UR都市機構 東北</p>	<p>いろんな地権者がいていろんな思いをしましたが、「みんな遠くから来てまちの復興のために頑張ってくれてるんだから、自分の利益とかは要らない。あなた達が考えてくれたことに従う」という言葉をもらった時は涙が出そうになりました（出てないけど）。こう言う人たちのために早く事業進めねば！と単純に奮い立ちました。</p>
<p>●会社をあげたバックアップに感謝 コンサルタント 宮城県</p>	<p>とことん追い込まれた。発注者も追い込まれていた。全ては被災した方々の早期復興のために。 その中でなんとかやってこれたのは現場スタッフだけの力ではない。それを支えてくれた会社全体のバックアップに感謝したい。</p>
<p>●力の結集 UR都市機構 東北</p>	<p>事業のピンチの際の各部門にまたがる広域的な調整・決定、一つの目標に向かう市・県・国の柔軟な姿勢、各企業者・JVのがんばり、そして、わがまち復興を願う地権者の姿勢など、様々な力の集結を感じました。 やってる最中は必死でしたが、今はよい経験をしたと感じています。</p>
<p>●技術の再確認 コンサルタント 福井</p>	<p>他のコンサルの方と一緒に仕事ができ、自分がこれまで培ってきた知識や技術がどこまで通用するのか試すいい機会となった。かなり専門的でマニアックな話も普通に通じて、あれこれ議論するのが非常におもしろかった。</p>
<p>●“人”に助けられ UR都市機構 東北</p>	<p>都会の喧騒を離れ、20数年ぶりの一人暮らし。単身赴任での東北勤務は、当初不安な面もありましたが、職場の良き仲間、権利者を含む関係各位の人柄等に助けられ、日々の復興事業に携わってこれました。</p>
<p>●コンサルタント同士の交流 コンサルタント 福井県</p>	<p>平時ではなかなか経験することはできないコンサルタント同士でのJVによる業務遂行等、実務を通じた技術的な交流は非常にいい経験になった。また、他の会社の話を聞いて、自分の会社のいいところや悪いところを改めて感じる事ができた。</p>
<p>●たくさんの背中を見せていただいた3年間 UR都市機構 山口裕敏 宮城・福島震災復興支援本部</p>	<p>入社後すぐに配属された復興現場。先輩方の大きな背中が自分を不安にさせる。1年目：「役に立っているだろうか？」と自問自答。2年目：「先輩の見様見真似」かつ「自分のスタイル」。3年目：「来年もいてくれるよね？」と地元の役所から。少しは自分の背中も大きくなっただろうか？</p>

<p>●震災復興を通して コンサルタント 東京都</p>	<p>被災地で復興事業を経験したことにより、これまであまり接したことない地域から支援に来た自治体の職員の方や、同業他社の技術者の方々との新たな交流が生まれ、自分自身の幅も広がったように思います。</p>
<p>●被災者に割と親近感も コンサルタント 宮城県</p>	<p>甚大被害にあわれた方々とどう話していいか初めは戸惑いがあったが、相對してみると割と普通。特別ではなく普段通り接することの大切さに気付かされた。</p>
<p>●震災業務 コンサルタント 埼玉県</p>	<p>震災業務は他部署の方と連携して作業する機会が多くあり、ひとつの事業が様々な人の力で動いているのを実感した。専門外の作業もなかにはあり、通常業務ではなかなか得られないような知識も得ることができた。</p>
<p>●人との出会い コンサルタント 福井県</p>	<p>被災地の方々だけでなく、全国各地の市町村からの応援で来た行政職員やコンサルタントの方々との出会いとその方々達と一緒にやった復興に向けた仕事は、生涯忘れることのない思い出です。もし叶うのであれば、復興後に関係者の皆さんで同窓会をしたいです。</p>
<p>●貴重な経験 UR都市機構 岩手県</p>	<p>初めての単身赴任生活で、岩手県沿岸の生活に慣れるのに精一杯でしたが、次第に恵まれた自然環境に魅了されました。復興に向けて地元の地権者の方々、関係機関の方々と共に一体となって仕事を進めることができ貴重な経験ができました。</p>
<p>●復興の一助となれば コンサルタント 埼玉県</p>	<p>被災市街地での移転補償に携わった。震災後間もない頃は近隣に宿泊できる施設もなく宿の手配が大変であった。慣れない雪道の運転も大変であったが、地元の方々とふれあう中で街の早期復興のために役立てたことは大変うれしく思う。</p>